# 鵜殿通信2012年７月号

～夢・水辺を創る～ 鵜殿のヨシ原　　鵜殿クラブ会報　通算１６３号

◆「ＳＡＶＥ ＴＨＥ 鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」（問い合わせは鵜殿ヨシ原研究所へ）
新名神高速道路建設計画から鵜殿のヨシを守るための活動が発足、ご協力ご参加ください

◆大きな広がる青空、あまたの命、雅楽、新名神高速道路で失うものは？

「鵜殿へ、観察会へどうぞ」小山弘道所長

鵜殿クラブ、鵜殿ヨシ原研究所 569-0011 大阪府高槻市道鵜町 4-12-5、090-３９９１-１６４６

# 「ＳＡＶＥ　ＴＨＥ　鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」発足します

「鵜殿通信」2012 年７月号（平成 24 年７月日発行、通算１６３号）

１．新名神高速道路建設計画から鵜殿のヨシを守るための活動

「ＳＡＶＥ　ＴＨＥ　鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」発足のご挨拶

「SAVE THE　鵜殿ヨシ原」は、鵜殿ヨシ原研究所と雅楽関係者、その他様々な分野の方が、連携・協力し、鵜殿のヨシ原の保全についての検討を行い、必要な行動を起こすことを目的としています。当面の活動として、新名神高速道路の建設計画のうち、鵜殿のヨシ原に関係する箇所の見直しを求める請願署名を行います。（詳しくは２頁）

２．「淀川・鵜殿の一年

～ヨシ原全域を網羅した季節ごとの定点撮影～」

発刊　鈴木慎悟さん（詳しくは４頁をご覧ください）

３．　８月４日（土）１０時～１５時

「すいた水循環フェア 2012 水はめぐる」

鵜殿の活動を展示と説明で紹介。

写真や鵜殿パンフレットを展示します。

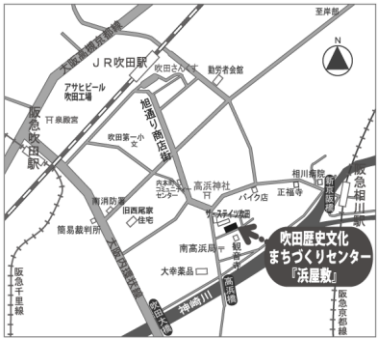
・展示会場でお手伝いください、募集します

関心のある方は事務局までご連絡ください。

・会場：吹田市浜屋敷、江戸末期の庄屋屋敷を再生

吹田市南高浜町６番２１号

・駅：阪急相川駅歩 10 分ＪＲ吹田駅歩 15 分




４．観察会（詳しくは３頁に）

・　８月　４日（土）１７～２０時「ツバメのねぐら入り観察会」

・　９月２９日（土）１７～２０時「鳴く虫の姿を見よう、声を聞こう」

・１０月１４日（日）、１１月１８日（日）１０～１５時「秋の観察会」

５．調査や観察やいろいろ行います

・７月３１日、８月７、２１日。その他の日。

・時間：１０時～１５時頃　・集合：１０時、淀川河川事務所山崎出張所（高槻市上牧町 4-55-1）

※追加日が有ることがあります。詳しくは、お問合せ頂くかホームページをご覧下さい。

鵜殿クラブ(うどの)　　〒５６９－００１１　大阪府高槻市道鵜町４－１２－５

・電　話：０９０－３９９１－１６４６、０７２－６６０－６０１１

ＦＡＸ：０７２－８９１－４７５１　★会員を募集中、年会費 4,000 円(会報印刷送料)

・メール：ｕｄｏｎｏ＠ａｒｅｓ．ｅｏｎｅｔ．ｎｅ．ｊｐ

ウェブ　http://ｕｄｏｎｏ―ｙｏｓｈｉｈａｒａ．ｃｏｍ（変わりました）

・会長：長屋昭義　顧問：小山弘道　事務局：谷岡寿和子　・設立：1998 年３月

鵜殿ヨシ原研究所　所長：小山弘道　連絡先は同上。参加者を募集中です

# 新名神高速道路建設計画から鵜殿のヨシを守るための活動
# 「SAVE THE 鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」発足のご挨拶

謹啓　盛夏の候、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、大阪府高槻市鵜殿のヨシ原を保全するため、「SAVE THE 鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」という活動を発足する運びとなりました。

ご存知のとおり、鵜殿（うどの）のヨシ原で採取されるヨシが、雅楽の楽器である篳篥（ひちりき）の蘆舌（ろぜつ：リード）にとって最適とされています。

しかし、その鵜殿のヨシ原上を通過する、新名神高速道路の八幡～高槻間の建設凍結が解除され、着工が決定しました。鵜殿のヨシ原は、良質のヨシが育つ場所というだけでなく、雅楽にとって古くから密接な関わりがある場所であり、伝統・文化の継承という点から、見過ごすことのできない事態です。

「SAVE THE　鵜殿ヨシ原」は、鵜殿ヨシ原研究所と雅楽関係者、その他様々な分野の方が、連携・協力し、鵜殿のヨシ原の保全についての検討を行い、必要な行動を起こすことを目的としています。

当面の活動として、新名神高速道路の建設計画のうち、鵜殿のヨシ原に関係する箇所の見直しを求める請願署名を行います。

請願署名については、現在準備を進めております。「SAVE THE　鵜殿ヨシ原」の名称の入った署名用紙をご用意いたしますので、後日改めて署名のご協力についてお願いのご連絡をさせていただきたく存じます。

どうぞ、活動趣旨をご理解いただき、「SAVE THE　鵜殿ヨシ原」に、ご賛同・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

まずは書中をもってご挨拶申し上げます。

謹白

2012 年 7 月吉日

「SAVE THE 鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～」実行委員会代表

中川　英男

【SAVE THE 鵜殿ヨシ原～雅楽を未来へつなぐ～　実行委員会】

代表　中川　英男

実行委員　鵜殿ヨシ原研究所（所長：小山　弘道）

雅楽関係者（とりまとめ：大阪楽所代表理事　中川　英男）

■問い合わせ先■

〒534-0027　大阪府大阪市都島区中野町 3-10-35　中川方　　FAX：06-6351-1774

EMAIL：info@save-udono.com　　URL：http://www.save-udono.com/

※専従者を置いておりませんのでメールまたは FAX にてお問い合わせください。

※鵜殿については鵜殿ヨシ原研究所までお問合せ下さい。

鵜殿ヨシ原研究所　〒569-0011 大阪府高槻市道鵜町４－１２－５

・電　話：０９０－３９９１－１６４６　　・ＦＡＸ：０７２－８９１－４７５１

・メール：ｕｄｏｎｏ＠ａｒｅｓ．ｅｏｎｅｔ．ｎｅ．ｊｐ

・ウェブ　http://ｕｄｏｎｏ―ｙｏｓｈｉｈａｒａ．ｃｏｍ

# ８/４ツバメのねぐら入り観察会、９月鳴く虫を観よう聴こう

１．８月４日（土）１７～２０時、<u>ツバメのねぐら入り観察会</u>　講師：佐々木和之氏
子育てを終えた親ツバメと巣立った若鳥ヒナたちは、日中は数十羽ほどの小群でエサの虫を捕りますが、夜になると数千～数万羽にもなる集団で、ヨシ原などでねぐらをとります。
ツバメは夕方から集まり始め、日の入りの時間７時頃に集まりが最大となります。

・午後５時に山崎出張所集合　・雨天実施（室内で講座）　・８月１日までにお申込みください
・持ち物：懐中電灯、熱中症予防にスポーツ飲料と水（夕方も注意を）、食事、雨具

２．９月２９日（土）「鳴く虫の姿を観よう声を聴こう」河川レンジャーと共催、講師：青柳正人氏
♪あれ松虫が鳴いている　チンチロチンチロ　チンチロリン、あれ鈴虫も鳴き出したリンリンリン
リンリーンリン、秋の夜長を鳴き通す　ああおもしろい虫のこえ♪　鵜殿で聴いてみましょう

・夕方５～８時頃　・５時山崎出張所集合　・雨天実施（雨は室内講座）　・２４日までにお申込を
・持ち物：懐中電灯、上着（夜は冷える）軽食、飲物、雨具。２２日（土）下見と打合せを実施

☆いずれも場所：鵜殿ヨシ原（高槻市）、参加費：無料　、募集３０名、小学生は保護者同伴で。

<u>※お申込は３日前までに、必ずお願いします</u>

・最寄り駅：阪急電鉄、京都線「上牧駅（かんまき）」徒歩１５分、駅前にインパーキング有り。
電車の高架下を通り１７１号線を渡る。金光中学高校前の用水路に沿い淀川方向へ進むと堤防、堤防に突き当たったら左の道を上がる、堤防上の建物が「山崎出張所」※駐車場は有りません。

・「秋の観察会」１０月１４日（日）、１１月１８日（日）１０～１５時

「淀川・鵜殿の一年 ～ヨシ原全域を網羅した季節ごとの定点撮影～」発刊について

2012 年 7 月 鈴木慎悟

今年 2012 年の 5 月に「淀川・鵜殿の一年 ～ヨシ原全域を網羅した季節ごとの定点撮影～」を刊行いたしました。この本は、鵜殿クラブに 1 部寄贈していますので、いつでもご覧頂くことができます。書籍の内容はタイトル通りで、鵜殿の堤防に 8 箇所定点を決め、1 年間に 20 回ほどパノラマ撮影したものを載せています。また、観察会でよく耳にする鵜殿に関する話題も、コラムとして随所に載せています。そして写真の生データは付録の DVD ディスクに収めています。

治水が整備される以前の鵜殿は、ヨシの比率が高かったことはご存じのとおりと思いますが、その時代は過ぎ去りました。そして、新名神のニュースが飛び込んできた今、鵜殿はこれからどうなるか不透明です。鵜殿は時代とともに人間活動の影響を受けてどんどん変化し、はるか未来において今の状況は知られることなく埋もれてしまうかもしれません。実際、今年の春まで、国立国会図書館で鵜殿をテーマとする書籍を検索しても、ヒットするのは研究記事のみでした。本書を刊行した目的は、今の鵜殿をスナップショットとして残し、未来の人が鵜殿を調べてもすぐわかるようにしておくことです。

本書の PDF 版は　http://www2s.biglobe.ne.jp/~SSS/udono/ にまとめています。15MB 程度しかないため画面は荒いですが内容は把握できると思います。6 月より、国立国会図書館で検索すると、本書、および共に送付した「鵜殿ヨシ原ログブック」が引っかかるようになりました。

本書の作成には少なからぬ労力を要しました。私が鵜殿で三脚を担いでいる様子をみて、何をしているのかと思われた方も少なからずいらっしゃったようですが、季節は待ってくれないため、あらかじめ定めた間隔で鵜殿を訪れる必要がありました。また、1 枚のパノラマ撮影をするのに、10 回ほどシャッターを切りますが、それを 8 箇所の定点で、1 年に何度も撮影します。最も時間がかかったのは、それらをパソコン上で繋げる作業でした。しかしゲラ刷りが完成してみるとやはり苦労した甲斐があったと思いました。本書には、のちの事を考えて、ISBN 番号(図書コード)を取得しました。通常自費出版となれば、どこかの出版社に依頼して行うわけですが、私の場合はウィステリア書房という屋号を作り、MyBook というアルバム製本サービスを利用しました。その代わりレイアウト校正その他もろもろの作業や手続きは自分で行う必要があります。

一方で、鵜殿をピンポイントに扱った書籍を、製本費の 17000 円前後で頒布しても、注文が集まらないことは容易に想像できます。流通に不可欠な JAN コードを取得し、再販制度を通した販売の態勢を整えることは容易でしたが、色々厄介な面もあり、出版の目的から考えた結果、公共施設への配布のため少数部だけ刷ることにしました。寄贈先は図書館や博物館です。通常図書館は図書の受け入れ可否を後で決めますが、各地図書館を回り、好意的な対応をして頂いたところに寄贈しています。以下にリストを示します、市町村立図書館は全て本館に持参しました。

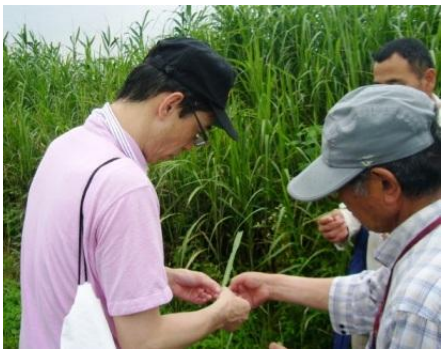
国立国会図書館本館と分館(東京都、京都府精華町)、高槻市立図書館の各図書館(5 部)、あくあぴあ芥川(高槻市)、大阪自然史博物館(大阪市)、なにわ歴史塾(大阪市)、大阪市立環境学習センター生き生き地球館(大阪市)、大阪府立図書館本館と分館(大阪市、東大阪市)、大阪市立図書館、枚方市立図書館、淀川資料館(枚方市)、島本町立図書館、大山崎町立図書館、八幡市立図書館、京都市立図書館、堺市立図書館、茨木市立図書館、寝屋川市立図書館、長岡京市立図書館、琵琶湖博物館(滋賀県).歴史民俗博物館(千葉県).古賀河川図書館(福岡県).連邦議会図書館(米国)

本書は、著作権として、クリエイティブ・コモンズ「表示」を指定しています。このライセンスは、著者を表示しさえすれば、許諾なしに複製、改変、展示、商業利用が可能というものです。もし誰かが自分で資料を作るときに本書の写真や文章を使いたい場合は、無料で自由に使うことができます。本書が少しでも色々な場所で役に立てれば、と願っています。もちろんご注文いただければ実費で頒布いたしますが、自由にコピーしていただいても構いませんのでどうぞご活用ください。本書の PDF 版は　http://www2s.biglobe.ne.jp/~SSS/udono/

１．高槻市中央図書館で鵜殿ヨシ原研究所の活動を展示中です。市役所の３階、（火）休館。

２．高校生の皆さんを案内　2012 年７月１４日、日韓高校生交流事業、淀川・河川の植物調査
「景色を持って帰ってもらいたい」と堤防を歩き掘り下げ地→淀川沿い→水路、ぐるっと一回り
梅雨の晴れ間の蒸し暑い日でしたあ。大阪の高校生は８月に韓国全州市で発表交流を行います。

３．オギ飛ばしで遊ぼう！オギの葉っぱで矢を作って弓は自分の体、遠くまで飛んでいけー



オギはススキに似た植物、カヤネズミが好んで巣を作ります。
かや葺屋根にも使われます。身近な川や池で見かけませんか？

４.塩田真由美さん ヨシデザイナーとして企画デザイン製作会社を起業、アトリエは貸しスペースに

アトリエ May５周年記念 楽邦会の雅楽＆大正琴（関美保子）、前列右から２人目が塩田さん
Mail：info@art-may.com　電話: 072-844-1440　ブログ http://art-may.jugem.jp/
次頁のヨシ紙の照明器具、神札飾り、パーテーションなどの製作、販売は引き続き行っています。

産経新聞【語り継ぐ淀川】素朴な生命力身近に感じて　　2012年７月１４日（土）夕刊

「ヨシデザイナー・塩田真由美さん」

鵜殿のヨシ紙を使った照明器具を制作したヨシデザイナー

淀川の右岸にあたる大阪府高槻市鵜殿（うどの）地区に、ヨシの群生地がある。夏のこの時期、甲子園球場１８個分の広さに、高さ３～５メートルのヨシが、太陽に届けとばかりに生い茂る様は圧巻だ。やがて黄金色に色づく秋を経て、毎年２月にはヨシ焼きが行われる。春の芽吹きは、神々しい生命力の象徴だ。

「春の新芽が、夏には５メートルほどの背丈に成長していくのですから、古来、日本でヨシの新芽を神格化していたのはうなずけます。そんな鵜殿のヨシを紙に加工したものを、アート作品に取り入れています」。

そう話すのは、枚方市岡本町のギャラリー「アトリエＭａｙ」のオーナーで、ヨシデザイナー、塩田真由美さん（５３）だ。

刈り取った鵜殿のヨシを乾燥させ、チップ状にし、すいて完成するヨシ紙は、ほのかに黄土色を帯びた素朴な風合いだ。塩田さんは、５年ほど前から鵜殿のヨシ紙を使ったアート作品を発表している。くるりと巻いたヨシ紙の中にほのかな明かりがともる照明器具。笹柄の透かし模様を施したパーティション。ヨシの新芽を神格化していたことにちなんだ、神札飾り…。

神札飾りは、マンションには神棚そのものがないケースが多く、神社などでもらう神札の保管場所に困るという声を受けて創作した。和室にも洋室にもなじむと好評だという。

ヨシは、地球環境を良くする植物だといわれる。

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出す。また、富栄養化の原因となる土中や水中のリンや窒素を根から吸収するため、アオコの発生などを抑え、ヨシ表面に生息するバクテリアや貝などの小動物も水質浄化に役立っている。

地球環境の保全につなげようと、鵜殿のヨシ原と生き物を守る活動をする団体「鵜殿ヨシ原研究所」（高槻市）がある。ヨシを有効活用しようと、ボランティアでヨシを刈り取り、製紙会社がヨシ紙に加工。塩田さんは５年前に環境に配慮したヨシ紙を知り、アート作品に取り入れるきっかけとなった。

「鵜殿のヨシをヨシ紙などに利用して、環境保全にも役立てようとする活動を知り、私はアートの分野で活用したいと思いました」

塩田さんはギャラリーでアート作品のほか、ヨシをプラスチックと複合して作った「ヨシの箸」や便箋、封筒なども販売している。箸のパッケージには、塩田さんの次女で京都造形芸術大４年の菜津子さん（２１）がデザインした、鵜殿のヨシのゆるキャラ「ヨシボー」が印刷されている。

塩田さんは今後、ギャラリーを貸しスペースとして提供し、ヨシデザイナーとしての活動の幅を広げるため、企画デザイン制作会社を立ちあげる予定だ。「ヨシは目立たない存在だけど、どこかうち捨てておけない、素朴な風合いが魅力。アートの面から、鵜殿の環境、また地球環境に貢献していきたい」（横山由紀子）

小山弘道先生が取材を受けました。

「邦楽ジャーナル」　2012年7月号（7月1日発売）（有）邦楽ジャーナル

TEL 03-3360-1325　FAX 03-5389-7690　メール info@hogaku.com

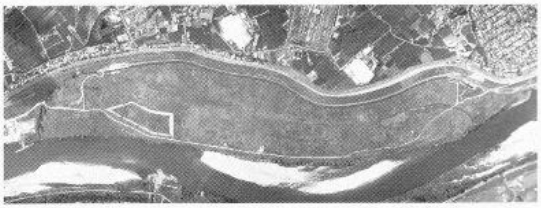
ネット通販　http://hj-mag.com/SHOP/5650/6749/list.html

# 篳篥の蘆舌の唯一の産地に高速道路

## 雅楽1300年の歴史の危機

4月20日、国土交通省が新名神高速道路の建設再開を許可した。着工が凍結されていた区間のひとつ、高槻～八幡区間には、篳篥のリードである蘆舌の事実上唯一の産地である鵜殿ヨシ原（大阪）が含まれている。これを受けて、6月4日、宮内庁楽部首席楽長らの連名で「雅楽の篳篥のヨシを守るために」という声明文が、翌5日には「雅楽 篳篥の鵜殿のヨシの保全に関する声明」が、遠藤徹氏（東京学芸大学准教授・社東洋音楽学会理事）を呼びかけ人とする日本音楽史研究者有志16人の連名で発表された。その後、複数の雅楽演奏団体の連名で「新名神高速道路から鵜殿のヨシを守る声明」も発表され、雅楽協議会の手で署名活動も開始された。

鵜殿ヨシ原の高速道路建設予定地を指さす小山弘道鵜殿ヨシ原研究所長（写真提供・鵜殿ヨシ原研究所）



鵜殿ヨシ原（写真提供：淀川河川事務所）

篳篥（写真提供・鈴木治夫氏）

国内外の雅楽関係者らが加盟する雅楽協議会世話人の鈴木治夫氏は、「鵜殿以外のヨシではだめなのか、あるいは鵜殿のヨシを他所に移植すればいいじゃないかと安易におっしゃる方もありますが、結論から言えばどちらもだめです。これまでも宮内庁の楽人の先生方が、日本各地はもとより中国などのヨシも調べましたが使い物になるものは今だに見つかっていません。鵜殿独特の生育環境が不可欠なのです」と語る。

国交省の高速道路課によると、凍結解除の理由として、①渋滞解消、②名神高速道路の老朽化と災害時にそなえた道路ネットワークの多重化、③地元である大阪・滋賀・京都の知事からの陳情、の3つを挙げる。とはいえ、まだ着工許可がおりたばかりで、地元との話し合いに用いる図面等もなく、これから測量や資料作りが始まる段階だという。また、雅楽関連の声明文は受け取っており、「環境への配慮はもちろん必要で、担当する西日本高速道路㈱が検討会を立ち上げることになるだろう」という。

西日本高速道路㈱の建設統括課も、「これから淀川河川事務所や有識者の方々と話し合い、どういった検討が必要で、そのためにはどのような調査をどういう方法で行うかなど、入念な準備が必要であり、雅楽関係者のご心配も払拭してゆかなければ」という。

国交省の淀川河川事務所の環境委員のひとり、鵜殿ヨシ原研究所所長の小山弘道氏は、高速道路の完成を見るまでもなく、鵜殿の一部分でも着工されれば、日照・排ガス・踏み荒らし・保全に欠かせないヨシ原焼きができなくなる等の原因で、鵜殿の生態系は破壊され、篳篥に必要な品質を保つ唯一の産地である鵜殿のヨシは絶滅し、今後入手できなくなるという。

「雅楽はユネスコの世界遺産としても認められている大切な日本の文化です。今ここで本気で高速道路を阻止しなければ、1300年続いてきた雅楽の歴史が、ここで途絶えることになります」と小山氏は警鐘を鳴らす。

今回の工事凍結解除については、東京都の副知事で、かつて小泉首相の任命で道路関係四公団民営化推進委員会委員もつとめた作家の猪瀬直樹氏が、本年6月4日に退任した前田前国土交通大臣に対し「審議会で議論することなく、独断で建設再開を決めてしまった。はっきり言って、選挙目当てである」とネット上で発言するなど、注目が集まっている。（州）

# 「東京国際和太鼓コンテスト」今夏実施せず

## 過去10年を総括して「歴代グランプリの祭典」に

太鼓を打つ人にとって登竜門的存在となっている「東京国際和太鼓コンテスト」は、昨夏10回の節目を迎えた。今夏はコンテストを実施せず、その集大成として「歴代グランプリの祭典」を開催し、過去のグランプリの中から組太鼓13チーム、大太鼓5人の競演を、8月19日の昼夜2回に分けて青山劇場で行うこととなった（開催情報20頁）。

このコンテストは、「和太鼓の人材発掘と国際的に活躍する奏者の育成」を目指し、東京新聞と（財）浅野太鼓文化研究所が、2002年10月に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）で初開催した。以後毎年10月に同会場にて第4回まで開催。06年の第5回目から、主催者に（財）児童育成協会（こどもの城）が加わり、太鼓の様々な魅力を集めたイベント「TAIKO JAPAN」として8月の青山劇場に会場を移してリニューアル。コンテストのみならず、太鼓や篠笛などのワークショップを行う「和太鼓カレッジ」、第一線で活躍するプロによるコンサート「青山太鼓見聞録」とともに夏の恒例イベントとなった。

コンテストは、「組太鼓の部（青少年／一般）」「大太鼓の部」の3部門にわかれ、それぞれの課題曲と自由曲の総合点で競うものだ。「太鼓はこうあらねばならない」という概念を廃し、審査員それぞれの感性で評価するのが特徴。このコンテストによって、多くのプ

鵜殿通信　連載１２５　明治維新秘話：「雅楽と薩長同盟」

２０１２年7月２９日（日）

鵜殿ヨシ原研究所所長　小山弘道

昭和３５（１９６０）年大学３年生の冬。私は、東京都文京区追分町にある鹿児島県・島津奨学会学生寮「同学舎」にいました。近所の居酒屋で一人で飲んでいると、客が入って来ました。おかみさんと３人で話をしていた時、突然「おう、君、薩摩か。俺は会津だ」。ご馳走になりながら話がはずみました。今でもカラオケで「古城」を唄いながらその時のことを思い出し胸迫る思いです。

明治維新の時、薩摩と会津は敵同士。上野の山で戦い、最後は会津で戦いました（戊辰戦争）。私は震災の後、居酒屋で「福島の酒」を猪苗代湖、磐梯山の景色を思い浮かべながら、１、２杯飲んでいます。ささやかな復興支援です。そこで出会いがあっても鹿児島県人だ、福島県人だ、では盛り上がる話にならないだろうと思います。

山口県を始めて意識したのは、「ツル」でした。私の生まれは鹿児島県出水、ツルの渡来地です。小学生の頃、山口県八代村にも渡来することを知りました。出水の方が数が多いと知り、勝ったと思っていました。昭和２０年代は出水も数が少なく、せいぜい４百羽程度だったのだそうです。
またその頃、各県対抗九州一周駅伝がありました。何で山口県が出てくるのだろう、弱ければ意識しなかったでしょうが、強い。鹿児島県は負けていました。

中学、高校の時、日本の歴史を学び、吉田松陰を知りました。出身地は山口県ではなく、長州。薩摩は、西郷隆盛。日本の歴史を変えた薩摩と長州は、京都で戦っています。薩長同盟には、土佐の坂本竜馬の働きがあったことを後に知りました。戦った者がどうして同盟を結んだのか不思議ですが、その時代の国を思う心が通じていたのでしょう。先日、新聞で山口大学と鹿児島大学の医学部が共同研究という記事を見ました。タイトルに薩長同盟と書いてありました。私の歴史認識は今も藩政時代です。

山口県についての最初の思い出は、下関です。昭和１９年夏、小学校（国民学校）入学前、小学校教師で国語が専門だった父が県から東京へ派遣されていた時、半年だけ東京で暮らしました。
父が下関まで迎えに来ました。連絡船から降りた後、妹を背負った母と白い長いホームを懸命に走ったのを映像として思い出します。研修の目的は、普通語の教育についてだったのだと聞いた事がありました。戦後、昭和２０年以降も「普通語を話しましょう」と教室や廊下に貼ってありました。
薩長同盟の席上ではどのような言葉で語り合っていたのだろう、と想像して嬉しい気持ちになります。お互いを解かり合う強い気持ちがなければ薩長同盟は結ばれなかった。テレビ時代になって日本にも共通語が出来ました。今「方言」が無形文化財になっています。各地の文化が消えていきます。

２回目は昭和３０年の夏、千葉県館山の往復で通過。３回目は昭和３２年の夏。
大学の同級生３人（１人が島根県松江高校出身）で山陰線回りで下関に。関門海峡に歩行者用の海底トンネル開通直後でした。汽車で門司港へ、連絡船で下関へ、歩いて門司港へ。山口県の土を踏んだのは初めてでした。
４回目は岩国。大学２年生の夏、帰郷する途中で錦帯橋を見に行ったのです。当時はどこへ行くにも角帽を被っていました。それだけにどこの大学生か一目瞭然、責任感がありました。錦帯橋へはバス。小さな荷物を持って立っていると、途中で前に座っていた女子高生が「荷物をどうぞ」と膝に置いてくれたのです。その時私は二十歳。恥ずかしかったのを思い出します。遥か昔の話です。錦帯橋と白蛇を思い出しています。

鹿児島県出水から東京まで急行で２７時間。山陽線は何時も夜、東京からも大阪過ぎると夜。いつも夜中に「あさ（厚狭）～」。瀬戸内海をほとんど見ることがありませんでした。高校の同級生が山口大学にいたのに、途中下車が出来ませんでした。

「明治維新秘話」はここから。

日本の雅楽は１３００年の歴史を持ち、ユネスコが世界無形文化遺産に指定し高く評価されています。管絃の合奏の中心となる楽器は、一般的に三管、三鼓、両絃の８種類です。
三官は 笙（しょう）、篳篥（ひちりき）、龍笛です、主旋律をひちりきが演奏します。
篳篥の蘆舌（ろぜつ：リード）は、淀川河川敷「鵜殿のヨシ原」（高槻市）に成育する「鵜殿のヨシ」が古来最適とされ、宮内庁楽部で使われています（鵜殿パンフレット参照）。

３年前、日本の伝統文化雅楽に危機迫る出来事が起こりました。鵜殿を横断する高速道路（新名神）建設推進の動きが出てきたのです。この事を宮内庁に伝えなくては。
丁度その時、東儀俊美先生の雅楽ゼミナールが大阪で行われることを知り、訪ねてこの話を講演前に伝えました。
大阪市中央区の北御堂（本願寺津村別院）で天王寺楽所雅亮会の雅楽ゼミナール（２００９年６月１５日）。
講師：東儀俊美（元宮内庁楽部首席楽長・日本芸術院会員）先生の「天王寺楽所と明治選定譜」の話でした。その中で、私にとっては思っても見なかった驚きの「薩摩が」という言葉が出てきたのです。以下のようなくだりの中だったと思います。

【明治三（１８７０）年三月七日、明治天皇は二十二日をかけて東京着、遷都となった。それと共に「三方楽人（大内、南都、天王寺）」にも「東京に集結せよ」と云う命が下された。この日から楽人達の困難と困惑が始まった。しかし、最後まで下向に応ぜず、大阪、奈良に残った楽人の方が多かったとも云われている。公卿達にとっても「千年以上に渡って守り伝えて来たものを取り上げられたと云う大事件であった。」】
明治維新によって都が京都から江戸・東京へ移った、それは薩摩のせいだと云う意味です。百三十余年を経た今も、雅楽にとっては痛恨の出来事として伝えられていることを知りました。「ウ~ン。私、薩摩」。薩摩出身の話はお伝えしていなかったのです。長州も一緒だったのに、同盟前長州は幕府側で薩摩と戦っていたので罪なしと考えられてきたのではないか。薩摩人としてはちょっと複雑ですが。

高槻市の依頼で、昭和５０（１９７５）年淀川の河川敷「鵜殿のヨシ原」でヨシの調査を始めました。初めは、よしず、すだれ用のヨシが減少してきたことでした。
１９９６年、建設省淀川工事事務所（現国交省淀川河川事務所）のヨシ原保全事業が始まって以後、現在は河川事務所と進めていますが、１９９９年雅楽関係者と、翌年から宮内庁の東儀先生方との出会いを重ねて以来、「鵜殿のヨシ」の重要性を意識するようになりました。

「鵜殿の観察会」に、６年前から居酒屋仲間の植松浩さん（山口高校Ｓ３５年卒）が参加、その縁で今、山口高校出身の方達が多く参加されています。
予期せぬこととはいえ雅楽を混乱に陥れた「薩長」が、大阪、京都、兵庫からの参加者と共に鵜殿のヨシを見守っています。先日、植松さん、幹事役、江藤誠さん（Ｓ５０年卒）から、近畿鴻峰会での講演の依頼がありました。早く、どこかでと思っていた「秘話」を「長州」の皆様を前にしてお話出来ること、雅楽の神様に導かれているかのような不思議な気がしています。